

## 会 議 録

会議名	平成21年度第1回 八王子市市史編集委員会	
日 時	平成21年4月11日(土)午後2時～午後4時15分	
場 所	八王子市市史編さん室	
出席者氏名	委員	藤田覚委員長、新井勝紘副委員長、相原悦夫委員、畔上能力委員、池上裕子委員、関和彦委員、前田成東委員、松尾正人委員、光石知恵子委員
	説明者	佐藤広市史編さん室長、新井雅人市史編さん室主幹
	事務局	(説明者のほか)渡部恵一市史編さん室主事、白石烈市史編さん専門員、中村元市史編さん専門員、馬場有美市史編さん専門員、柳沢誠市史編さん専門員
欠席者氏名	小川直之委員	
議 題	1. 委員長、副委員長の選出 2. 会議の取扱いについて 3. 市史編さん事業の現状について 4. 専門部会の設置準備について 5. その他	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	1. 市史編集委員会委員名簿 2. 八王子市市史編集委員会設置要綱 3. 協議関係資料 資料1 八王子市史編さんの基本構想及び編集方針の策定について 資料2 八王子市史編さんの基本的な考え方 - 市史編さん基本構想(素案) - 資料3 平成21年度市史編さん室の年間事業計画	

## 会議の内容

### 1. 開会

### 2. 委員の委嘱

### 3. 委員の自己紹介、事務局職員の紹介

### 4. 委員長、副委員長の選出

(委員の互選により、藤田覚委員を委員長に、新井勝紘委員を副委員長に選出)

### 5. 会議の取扱いについて

【藤田委員長】それでは第1回編集委員会を進める。事務局から会議の取扱いについて説明を願いたい。

【新井主幹】会議の扱いについて、会議の公開の指針に基づき原則公開とする。ただし、非公開事項に該当する場合には、一部または全部非公開とする。会議録は要点筆記方式とする。発言者名は個人名を入れず、「委員の発言」のように表記する。以上の三点につき提案したい。

また、市史編集委員会について、市民に周知するため、委員名簿と会議録を市のホームページ等で公開したい。また、部会長については特に紹介したい。

【藤田委員長】個人情報もあり、歴史の編さんでも慎重に扱わなければならないテーマがある。場合によっては非公開もあり得るということでお願いする。

(会議の公開については、指針どおり決定)

(会議録の署名については、50音順で決定)

### 6. 市史編さん事業の現状について

(事務局から、市史編さん事業の進捗状況について説明。)

(松尾委員から、市史編さん審議会の経過と答申内容の概要について説明。)

(事務局から、「市史編さん基本構想(素案)」について説明。)

【藤田委員長】市史編さん審議会会長の松尾委員及び事務局から、これまでの経過の説明があった。この事業が市制100周年の記念事業であるということ、編さん期間は実質8年弱ということ、この期間を変更することは難しいが、刊行計画には議論の余地があること、今後、編集委員会で具体的な編集方針を策定してほしいという趣旨であった。

基本構想(素案)にある編さんの目的、編さんの方針と、この委員会で策定する編集方針とはどういう関係にあるのか。

【新井主幹】編集方針は、基本構想(素案)にある目的や方針に基づき、具体的な編集に

関わる基本理念や刊行物の体裁などが内容になると想定している。

【委員】自然編、民俗編には資料編がないが、例えば目録などを独立して発行することは可能なのか。

【新井主幹】本編、資料編以外に、付帯事業として「市史研究」「市史編さん室だより」「資料目録」「調査報告書」等の発行も含まれている。これに該当させる形で発行することも可能と考える。

【委員】「編さん方針について」の(3)(4)(5)は、言葉ではわかるが、これらを具体化した場合に、どのようなスタイルの市史ができるとイメージしているのか。

【佐藤室長】どのようなスタイルの市史をつくるかは、基本的には編集委員会で意見を伺いながら決めていきたいと考えている。事業の進め方としては、専門性が非常に高い中心的な部分の仕事は、委員を軸に進めていきたい。普及的なところは学校教育や広報広聴など、市の各所管に資料提供などして、そちらで成果物として出すなども考えられる。また、普及版やダイジェスト版は市民協働で委員の意見を伺いながらまとめ上げるなどといったスタイルも考えている。

【委員】具体的にどういうものを作るのか、もちろん専門部会で協議するが、ある程度の方向性がないといけない。例えば判型については、これが変わると掲載する資料数も変わるだろうから、なるべく編集委員会で決めた方がいいのではないか。また内容も、図録的にするか歴史資料を掲載するためにオーソドックスなものにするかがある。具体性のある計画をいつ頃までに示すということがあったほうがいい。

【藤田委員長】確かに判型やページ数などの具体的なイメージがないと難しいという点は同感である。そういったことはいつ頃までに決めればいいのか。

【佐藤室長】各部会で詰めていただき、その後、編集委員会で決めていただきたいと考えている。現段階で事務局から提案するものではないと考えている。

【委員】基本構想(素案)の中に、年度別の刊行計画が示されているので、これが前提となるのではないかと。通常では、事務局が示すか、各部会からの案を総合して編集委員会で議論するのがパターンだと思う。全てをゼロから決めるのは難しいため、各部会から部会単位でフレームを作ってもらい、それが刊行年度内に落ち着くのかはみ出すのか、内容がどうかを編集委員会で叩くのが、編集委員会の仕事ではないかと思う。

【藤田委員長】本編、資料編のボリュームなど、各専門部会と事務局で話し合い、各部会でイメージを出し、それをこの場に持ち寄ってもう一度議論することにしたい。

審議会の答申についてであるが、答申の中にある「市民に親しみやすい」ということは一番留意しなければならないことである。研究者として「質の高い」というところを追い求めると、それと齟齬をきたすことがよくある。それらが整理された叙述・編集を心がけるということであろう。

【委員】時代や分野にもよるが、市史執筆の際には「八王子市」のイメージをどこまで広げるか。この点によって、ボリュームも大きく変わる。その点も部会ごとに検討すること

でいいのか。

【佐藤室長】地域的範囲や時代区分なども、各部会と調整した後に事務局素案として提出したい。

【委員】「市民協働」は課題だと思う。いろいろなアイデアが必要だ。途中経過や中間報告などの形で市民還元し、逆に市民からの情報も得るといった往復運動が大事である。

【佐藤室長】企業や大学との連携も含め、いろいろな角度から市民協働の仕組みや取り組み方を模索したい。

【藤田委員長】市民協働という観点では、市内の歴史関係団体、歴史を学んでいる人々とのコンタクトの取り方は重要だ。それから、調査研究の成果を、いかに事業途中で市民に還元できるかを念頭に、市民協働という言葉を実現化していくということしかないのではないか。

【委員】市民協働には市民参加という点があるが、資料の所在によっては、市史編さんの期間内に出てこない場合もある。これは致命的になりかねないため、常に市民協働に取り組む必要がある。

【藤田委員長】広報活動は必要である。地域の新聞なども使うと良いだろう。

## 7. 専門部会の設置準備について

【藤田委員長】それでは、続いて専門部会の現状について事務局から説明を願いたい。

(事務局から、各専門部会の現状、活動費を中心とする今年度予算について説明。)

【委員】基本構想で挙げた項目をチャートにした組織図の中に、例えば市民ボランティアなど、協働体制の形が読み取れると、市民協働の説明が付きやすいのではないかと。

【佐藤室長】市民の歴史研究・愛好グループは、20 近くある。それらの団体へ一方的にお願いするだけでなく、市民の主体的活動と連携する形で進めたい。各団体とは今後協議に入ってから形を試案的に作り、次回以降示したい。

【委員】東京都の自然に関する例では、全都を対象とするのではなく、専門的知識を持った人を対象とするようにした結果、優秀な人がよく集まった。八王子の場合も、そうした人材をどう集めるか、システム、組織をどうやって作るかが問題だ。

【委員】「調査」「収集」「研究」とは堅苦しいが、広く市史編さんに協力いただける人など、市民の研究者や調査員もどこかに位置づけがあるといいだろう。

【委員】地元の研究会は地域単位にあるのか、それとも全市的な団体がいくつもあるのか。

【佐藤室長】地域的団体もあり、各分野でまとまった団体もある。八王子は共同体の機能が残っている地域などもあり、一律的に対応できる地域ではない。慎重に慎重を重ねて進めたい。

【委員】地域によっては内部が大変複雑なところもあり、よく配慮、検討して見極める必

要がある。

【委員】協働を表に落とし込む際、専門部会に入れると、ある分野で時代を跨ぐ研究をしている方がいた場合、部会に所属しなければ協働できないのか、と思われぬよう工夫を。

【委員】文書調査の際に取り次いでいただけるということも、十分市民協働だろう。必ずしも部会への所属が必要なのではなく、幅広く協力員だろう。

【委員】フレームの一番下のところに「市民協力制度」みたいなフレームを作ればすむ。特定の部会でなく全般にわたり作業する形にすれば、第三者からわかりやすい。

【藤田委員長】事務局はそれを含め検討されたい。

【佐藤室長】委員の発言を受け、対外的なフレームは事務局として作り直し、お示しする。

【藤田委員長】実際何が必要なのかといわれても、専門部会の立ち上げをまず行い、それからすぐ動き出すことで。

【委員】各部会がどういう調査をしているのか、他部会の委員にもわかるようしていただき、必要に応じて参加させていただけるとありがたい。

【藤田委員長】近世部会の中ではそういう話をしていて、特に近代とは文書所蔵者は重なるため、場合に応じて2部会一緒に行った方が効率的であると思う。要するに、専門部会の縄張り意識はなく柔軟にやっていくべきである。

【佐藤室長】情報はなるべく事務局で集約し、部会長へタイミングを外さないようにご連絡申し上げる。

【委員】これまでの市町村史では、市史編さんの期間だけ資料を市史編さん室に借りてくる例が多かったかと思うが、もし借りない場合は、資料の写真撮影などの必要がある。借りられるものについては、何年間か借りて編さん室で調査ができるとかなり効率的である。方針としてはどうするのか。

【佐藤室長】調査手法に関してはまだ定まった方針はないが、現実的にはなるべく借用可能な資料は、借用して編さん室で保管したい。現在郷土資料館と調整中だが、保存上のことを考えると、なるべく安心して保管できるような形をとっていきたい。

【藤田委員長】それでは、今後の編集委員会では、市史編集方針を決めていくことになる。事務局から、今後の進め方について説明を願いたい。

【新井主幹】今後何回かの会議を踏まえて編集方針を決められればなと思っている。その中には、判型、書く範囲、時代区分をどうするかなどの内容が、編集方針に盛り込まれてくるだろうと思うので、事務局案を考えながらそれを示し、最終的には編集委員会の場で編集方針としてまとめあげていただきたい。また、次回会議は5月下旬から6月上旬の間に開催していただきたい。

## 9. 閉会

【藤田委員長】それでは、これで本日の委員会を閉会する。

平成21年6月26日

会議録署名人 相原悦夫